

〈礼拝説教〉 2011年 6月 12日

## ペンテコステ・大人と子供との合同礼拝—聖霊がみんなの上にも降るんよ！

使徒言行録 2章 1～4節 使徒言行録 4章 23～31節

武田真治

### 一、教会のお誕生日

このペンテコステ礼拝は、教会のお誕生日をお祝いする礼拝です。この広島教会のお誕生日ではなくて、世界中のすべての教会のお誕生日、つまり世界に初めて教会というものが出来た日のことをお祝いする記念日なのです。

ですから、この時、世界中の教会が一緒になって教会のお誕生日をお祝いしています。それはすごい数なのですよ。

さて問題です。この広島市の中にキリスト教の教会はいくつあるでしょうか？変なモルモン教とかエホバの証人とかのキリスト教とは言えない所は入れないで、また天理教も教会って言っているけど、それらもちろん含めないで。

答えは、カトリック教会も入れて **85** です。どう、多いと思う？少ない？

では、もう一つ問題を出します。広島県全体ではいくつ教会があるでしょうか？

答えは、約 **190** です。そして全国ではキリスト教の教会の数はいくつあるでしょうか？それは約 **9250** です。たいしたことないと思うかな？

でも、世界中で考えたらすごい教会の数になるよね。いくつあるか、さすがにその数は数えられない程あります。そのほとんどの教会が今日は一緒に教会のお誕生日をお祝いしているのです。しかも、今お話しした数は教会の数だから、その一つ一つの教会の中には、今ここに集まっておられる様に、たくさんの人達が集まって礼拝をしておられるのですから、その一人一人の人数まで数えるとすごい数になりますね。その数え切れない人達が、今この時みんな教会の誕生日をお祝いしています。そう考えるとこれだけお祝いされる誕生日も珍しいのではないのでしょうか？イエス様の誕生日であるクリスマスもすごいけど、教会の誕生日もそれに続く程、大きな出来事だということ、分って頂けたでしょうか？

でも、今はそれだけ世界中にたくさんある教会も、もともとはたった一つの教会から生まれました。その一番初めの教会がどのように生まれたのかが書かれてある聖書の箇所が先程、読んでもらった所に記録されていました。

## 二、一同が一つになって集まっていると

即ち『一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。』です。

まずここには『一同が一つになって集まっていると』とありますね。一人ではなかったということです。イエス様を信じようと願っていた人達が集まるのが大事なのです。教会は、牧師が一人いれば教会が出来るということではなくて、みんなが集まってこそ教会が出来るということなのです。(絵を見せる) この絵は、ちょうど教会でみんなが集まって讃美歌を歌っている場面です。楽しそうですね。

私達も礼拝で讃美歌を歌いますが、この讃美歌という歌は一人で歌っても何かつまらない感じがします。これはみんなで歌ってこそ楽しく、また心に残るものだと思いますね。

## 三、そこに聖霊が与えられて

だけど、みんなが集まっているだけで教会となったかということそれだけでは教会は誕生しませんでした。一番肝心なものが必要だったのです。それは何でしょうか？

そうです。「聖霊」ですね。(聖霊の絵を貼り付ける)

聖霊って何でしょう？聖書には、この絵にあるように「炎」のようなものだとか、「舌」のようなものだと言われています。実際に、炎が上から降って来たら危ないよね、燃えちゃうよね。また、舌だとしたら、おばけのようで怖いよね。

これはその時、ここにいた人たちがそう感じたということだと思います。

きっと「炎」のように感じたということは、心や体が燃やされるような気持ちになったということではないかなと思います。また「舌のように分れた」というのは、そこにいた一人一人に何か降りて来た、何か分らないけど自分にも何か触れたように感じたということではないでしょうか。

そのように「聖霊」は、神様から来る不思議な力だと思って下さい。神様が上から送って下さる不思議な力・パワー・働きです。何かわからないけれども、そのような神様から与えられる不思議な力です。

しかも、もっと大事なことは、その不思議な力は、私たちにも与えられるということなのです。

今日はもう一箇所、聖書を読んで頂きました。同じ使徒言行録四章のその最後の 31 節に『祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語り出した。』とあります。これさっきのペンテコステの出来事とほとんど同じ出来事が、もう一度ここでも起こっているということを記録してくれています。

教会がこの世界に初めて誕生した時に聖霊はたった一度降りて来たということではなく、その後から何度も何度も与えられるようになったということなのです。だから、私たちにも与えられるものです。神様からの不思議な力・パワーは、今も与えられるものなのです。

#### 四、お祈りを通して

じゃあ、どうしたら、その神様の不思議な力である聖霊を与えられるのでしょうか？

その答えは、さっき読んだ、もう一度聖霊を与えられた時に、はっきり書かれてあるのですが、分りますか？

答えは「お祈り」です。聖霊が与えられる前に、そこに集まって人達はみんなでお祈りをしていました。

即ち、『これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。「主よ、」』（24 節）と。この言葉を最後まで読むと、『どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名

によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。』(30節)とあります。これは「お祈りの言葉」ですね。その証拠に、次の31節では続けて『祈りが終わると』と書かれてあります。そして、そこに聖霊が降ったのでした。ですから「お祈り」が大事だということが分ります。当時の教会に集まっていた人たちが『どうか、イエス様のお名によって、しるしと不思議な業が行われるようにしてください』と不思議な力を与えて下さいとお祈りをしていたから、神様が与えて下さったのです。

だから、私たちも『自分にも聖霊を下さい』、『神様の力を与えて下さい』とお祈りしなければ与えられないのです。なぜなら神様の方も、いるかいないか分からない人に聖霊をあげても、いらなかったのにとか邪魔だとか言われたらいやでしょう。与えて下さいと心からそう思っている人にこそ与えられるものなのです。

## 五、神様からの力が与えられて生きる

前の教会にお名前が樋田力さんという方がおられました。もうお亡くなりになられましたが、この方は兵隊さんとして戦争に行った方でした。でも、戦争が終わって遠くの戦地から帰って来た時に、普通だったら、戦争が終わって嬉しいなあと思うよね、でも力さんは何もする力がなくなってしまった、生きようと思う心の力が全くなくなってしまったのです。

でも、この力さんが久しぶりに教会に行って讃美歌を歌い、説教を聞き、お祈りをしたのです。「神様、こんな自分をなんとか助けてください」って。そうしたら本当に不思議なことに、心の中に力がわき上がって来たそうです。眼が覚めたような気持ちになったそうです。それから力さんは元気を取り戻して生きて行くことができたそうです。それが聖霊の働きだとおっしゃっておられました。

自分の持っている力はたいしたことありません。がんばろうと思ってもすぐ力がなくなってしまふ、それが私たちです。自分の中に蓄えられているパワーはそんなに多くないのです。だからこそ、神様からの力を与えられないとダメだと私は思っています。それが本当にこの世を生きて行く「力」となるのだと思います。『与えて下さい』とみんな

で祈って行きましょう。

(説教より抜粋)